

# 事業承継アンケート調査結果 (事業者向け)

# 調査の概要

## 1 調査の目的

龍ヶ崎市内の企業及び個人事業主の事業承継の現状や課題、支援のニーズ等を把握し事業承継支援を行うための基礎資料とする。

## 2 調査対象

「事業所母集団データベース」で抽出した市内事業者 1,506件

※以下の条件のものは除外している

- ・農業
- ・「〇〇営業所」「〇〇支店」等、本店でないことが明らかなもの
- ・医療法人
- ・チェーン店、フランチャイズ店
- ・ショッピングモール内に所在地があるもの など

## 3 調査期間

令和7年7月22日～8月20日

## 4 回答方法

郵送、web 回答（記名は任意）

## 5 回答結果

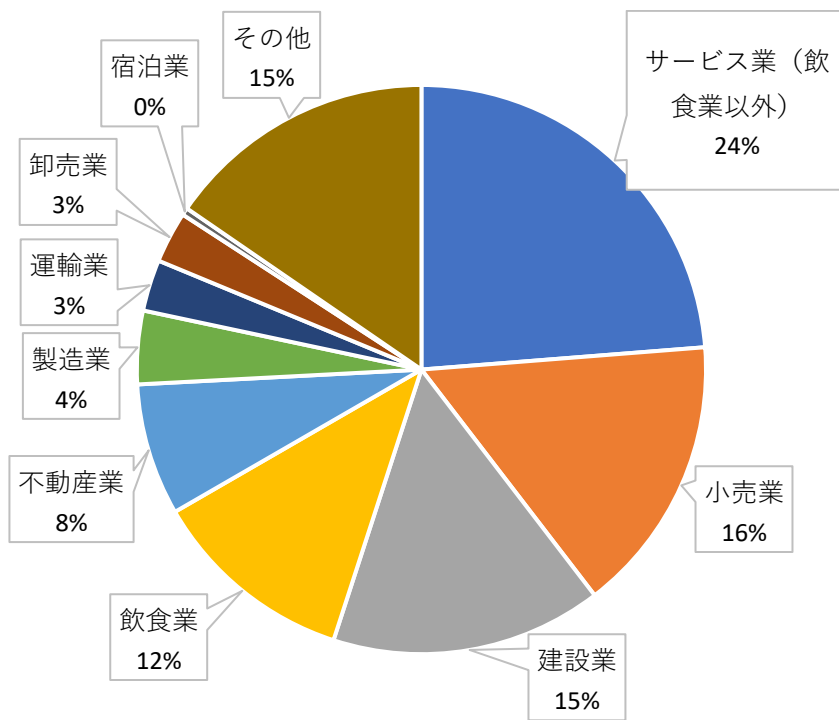
配布数		回収数	回収率
1,437		240	16.7%
回収内訳	郵送	172	12.0%
	WEB	68	4.7%

※1,506件発送したうち、69件が宛先不明・既に廃業。回収率の母数は1,437件として算出。

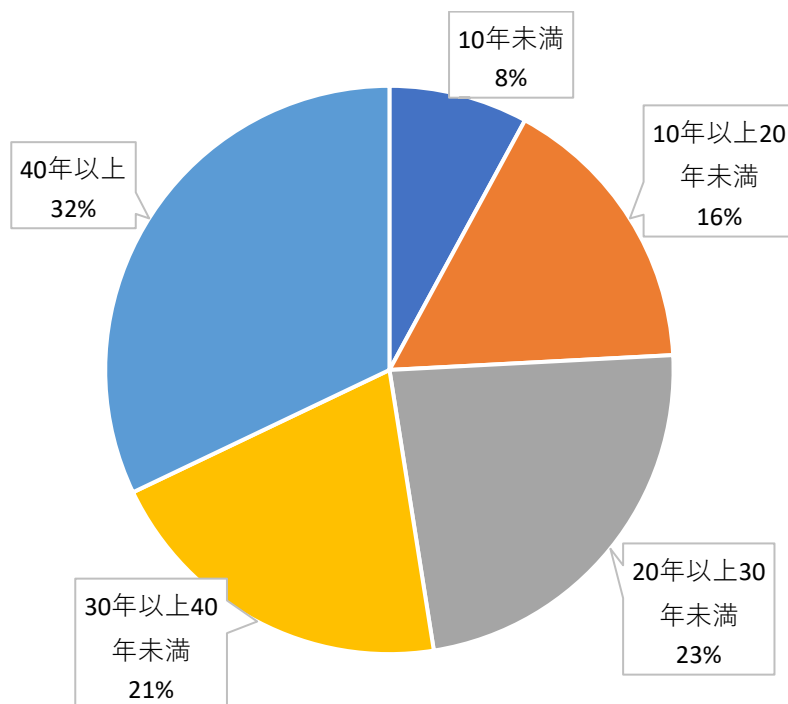
# 回答結果

問1 あなたが経営する事業所・お店やご自身についてうかがいます。

(1) 主要業種について最もあてはまるものを1つお選びください

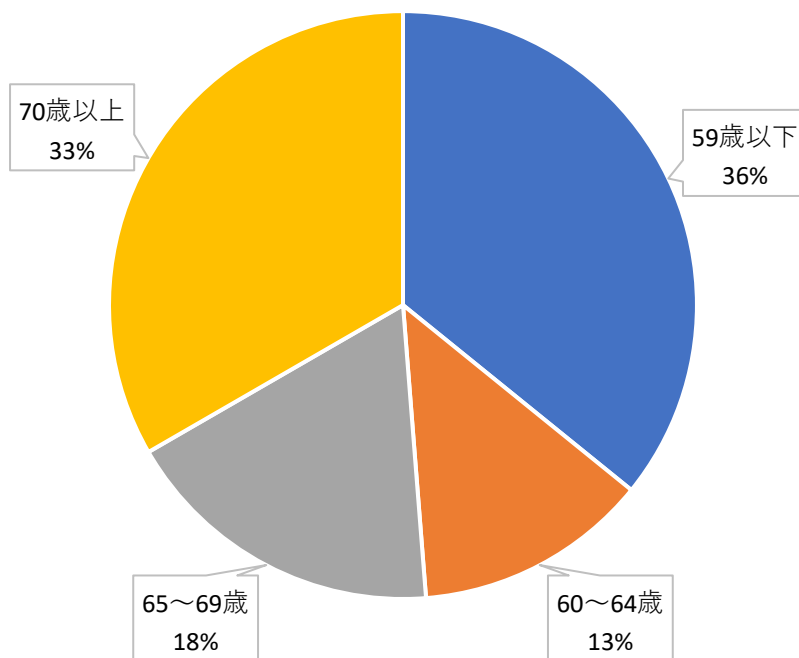


(2) 業歴は何年ですか。あてはまるものを1つお選びください。

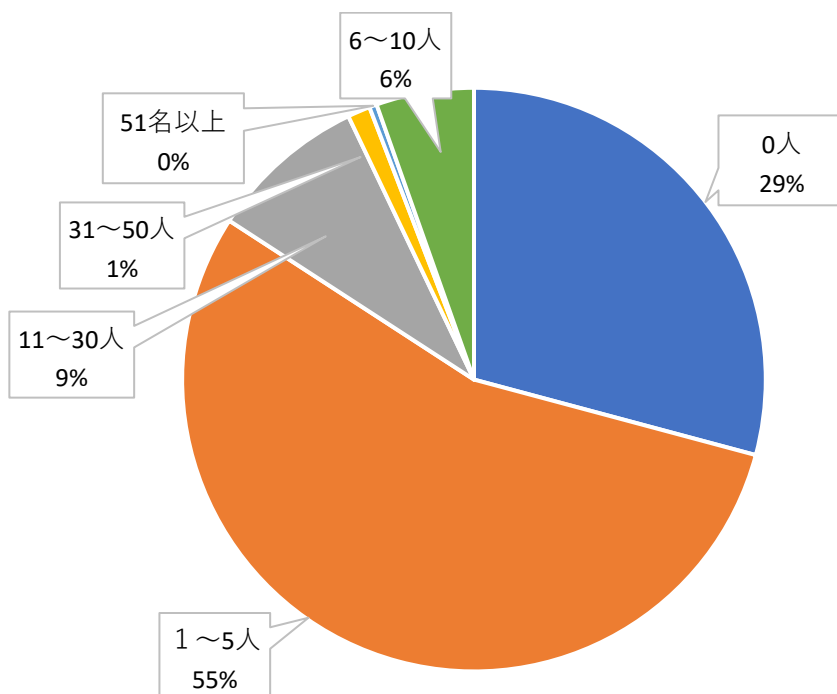


# 回答結果

(3) 経営者様のご年齢についてあてはまるものを1つお選びください。

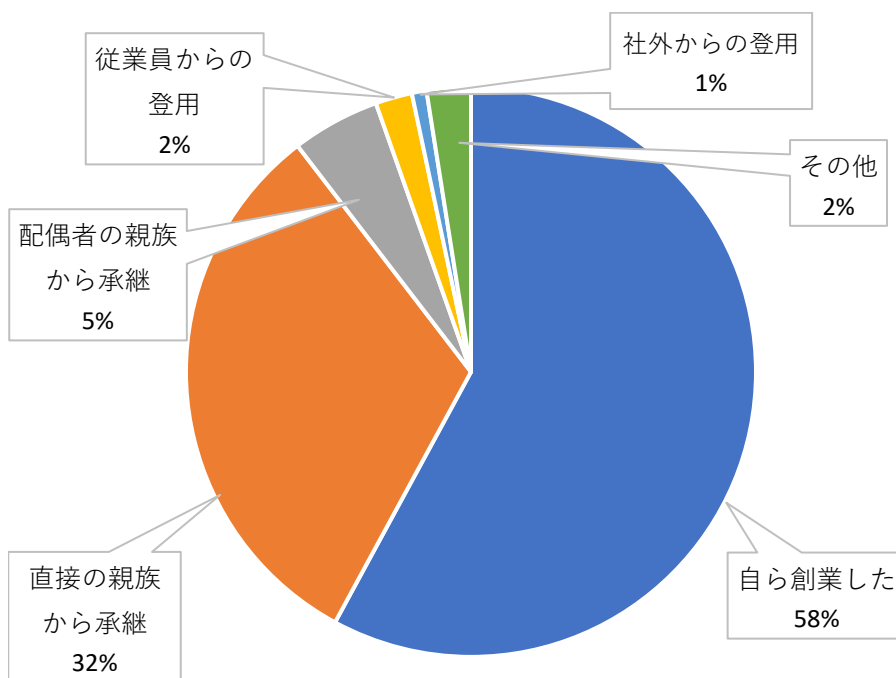


(4) 従業員数（常勤・パート含む）について、あてはまるものを1つお選びください。

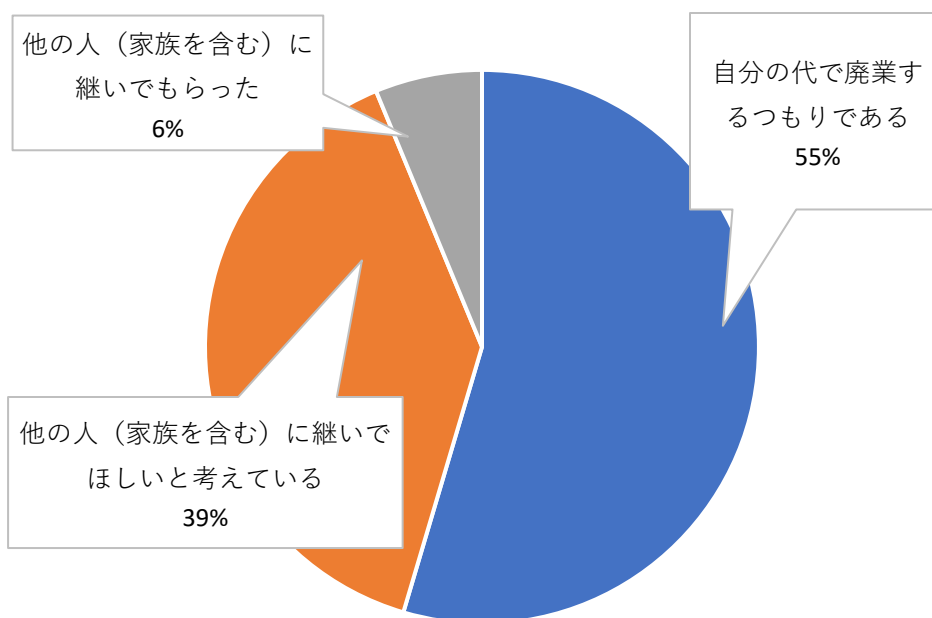


# 回答結果

(5) 先代との関係について、あてはまるものを1つお選びください。



問2 あなたの事業所・お店の将来についてどのようにお考えですか。  
(当てはまるもの1つ)



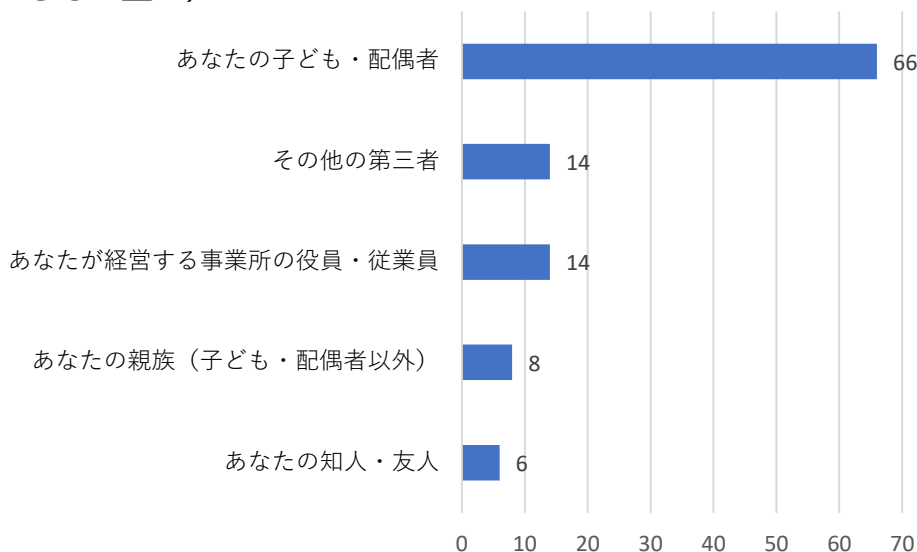
「自分の代で廃業するつもり」が相当数を占める。  
一方で「他の人（家族を含む）に継いでほしい」も少なくない。  
実際に「継いでもらった」実績回答も散見される。

# 回答結果

## ★問2で「他の人（家族を含む）に継いでほしいと考えている」と回答した方

問3 あなたの事業所・お店を継いでほしい方はどのような方ですか。

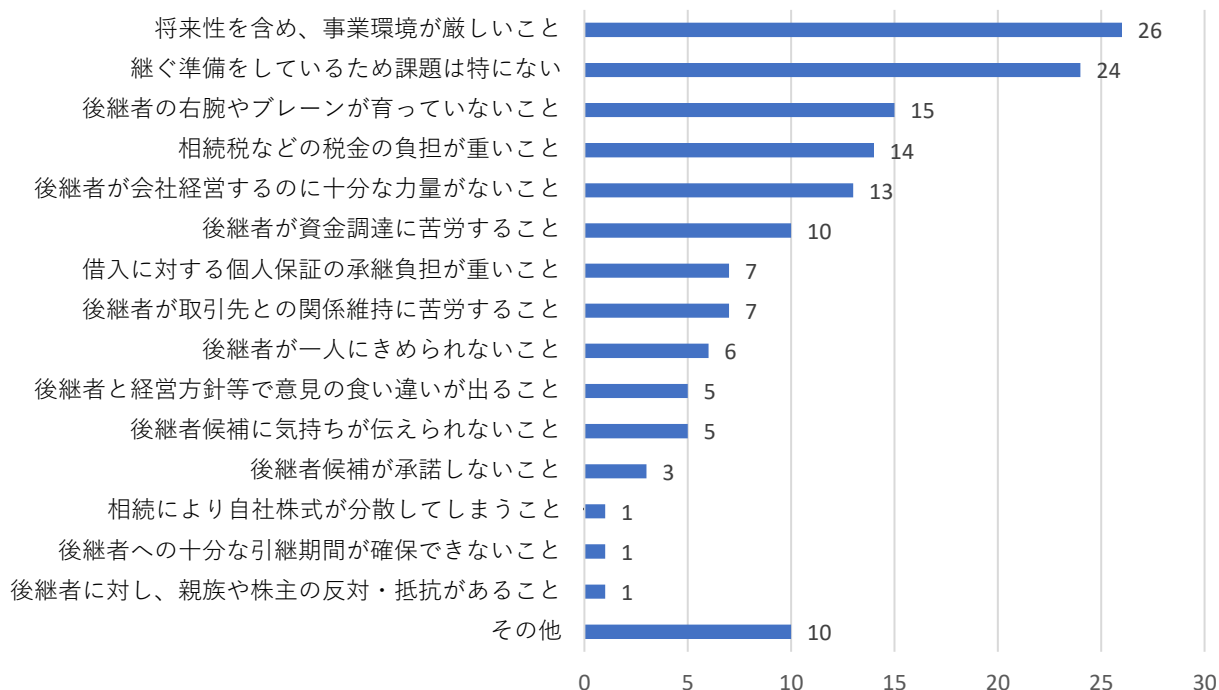
（当てはまるもの全て）



「子ども・配偶者」が最も多数だが、従業員を含め、第三者への承継も一定数あり。

問4 後継者へ事業の承継を行う際の課題は何ですか。

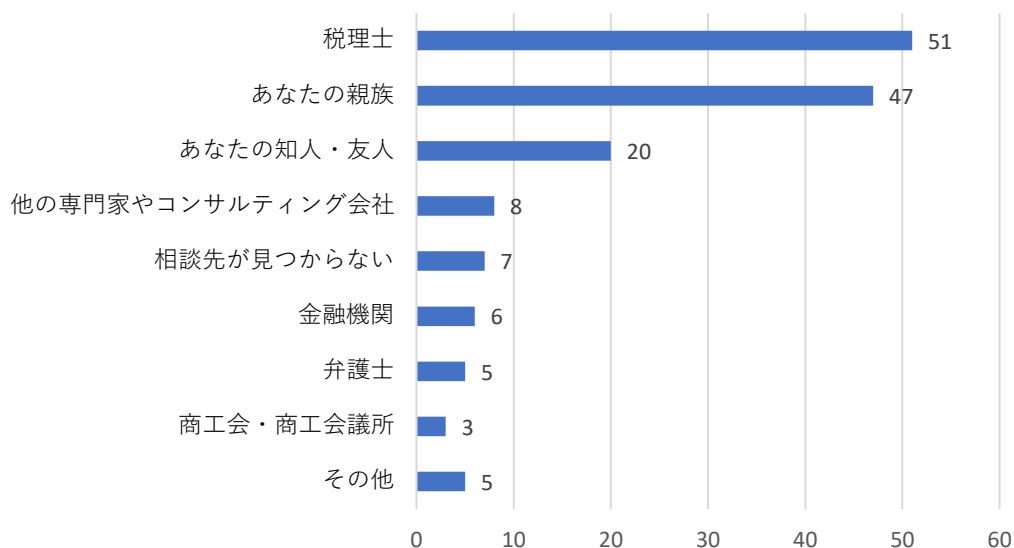
（当てはまるもの全て）



「事業環境が厳しい」「資金調達」「相続税負担」「人材（後継者・右腕・幹部）が育っていない」などが挙がる。

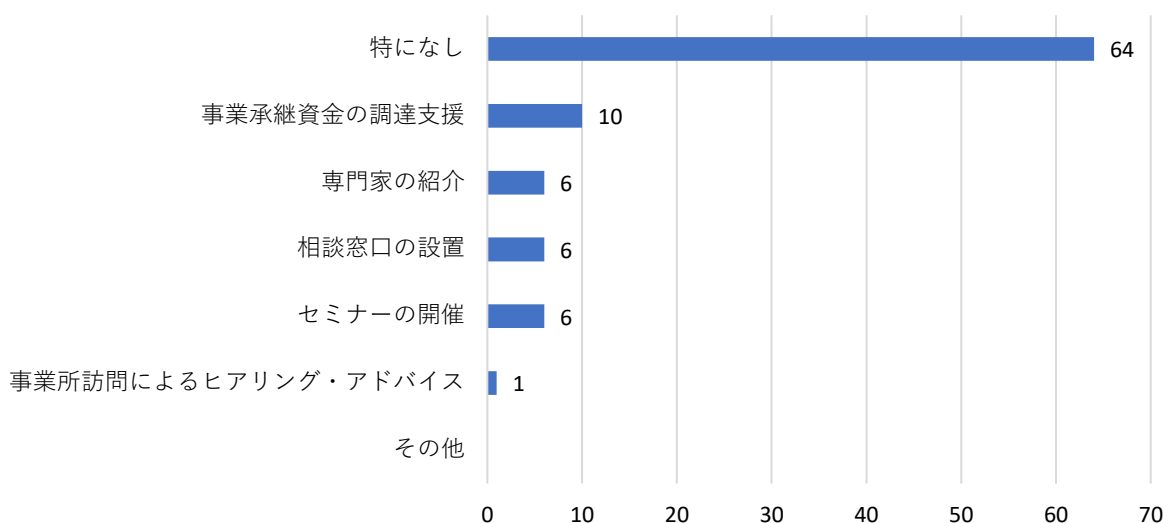
# 回答結果

問5 あなたの事業所・お店を引き継ぐための準備について相談できる方はいますか。（当てはまるもの全て）



「税理士」が最も多数であり、親族含めいずれかの相談先がある方がほとんどだが、「相談先が見つからない」も一定数あり。

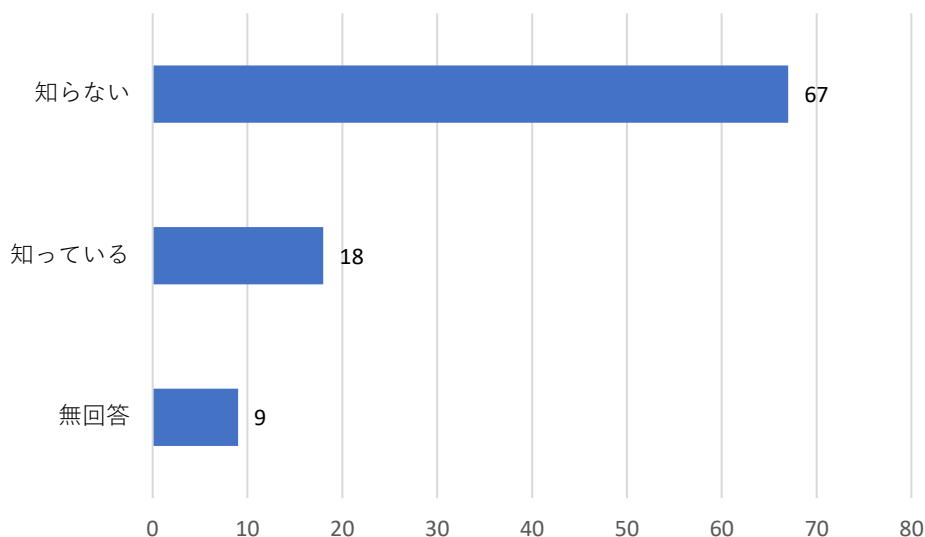
問7 事業承継に関して、求める支援はありますか。（当てはまるもの全て）



「特になし」が多数。「資金調達支援」「専門家紹介」「相談窓口」「セミナー開催」等。

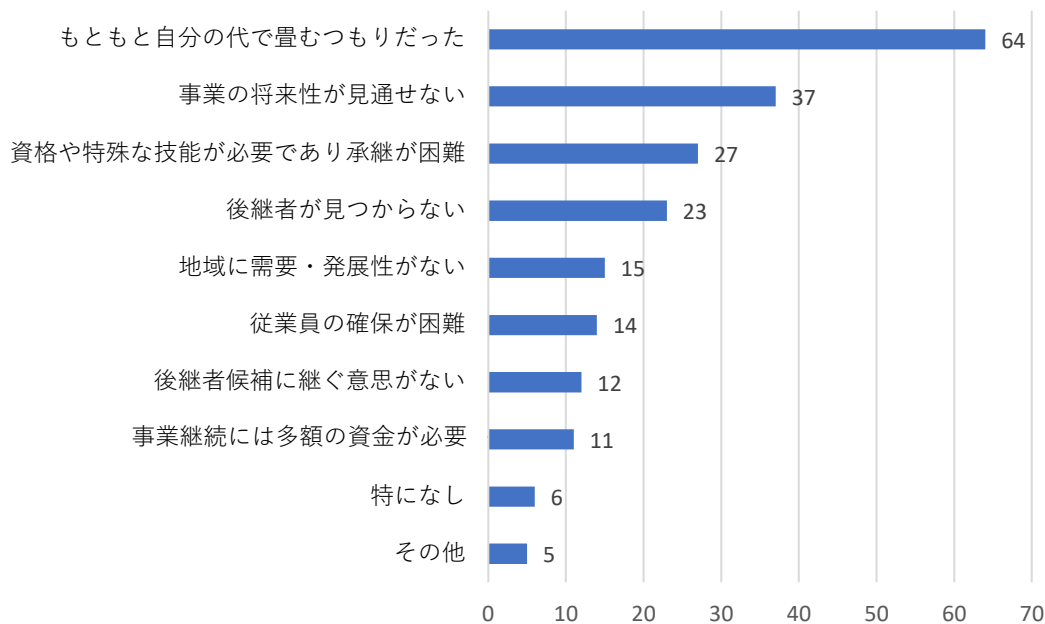
# 回答結果

問8 「茨城県事業承継・引継ぎ支援センター」をご存じですか。あてはまるものをお選びください。



## ★問2で「自分の代で廃業するつもりである」と回答した方

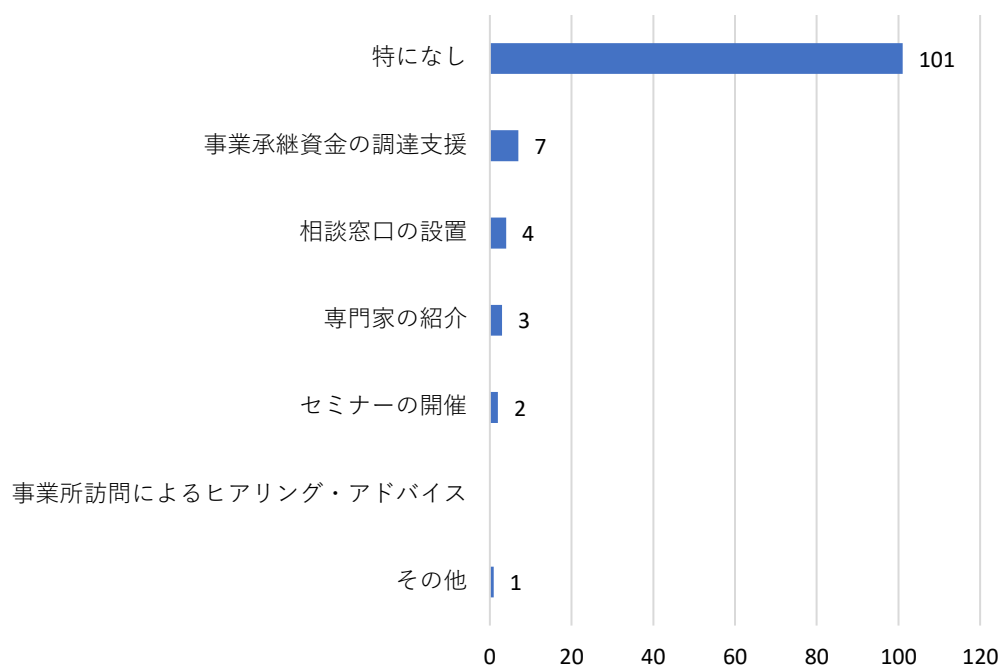
問6 廃業を考える理由は何ですか。（当てはまるもの全て）



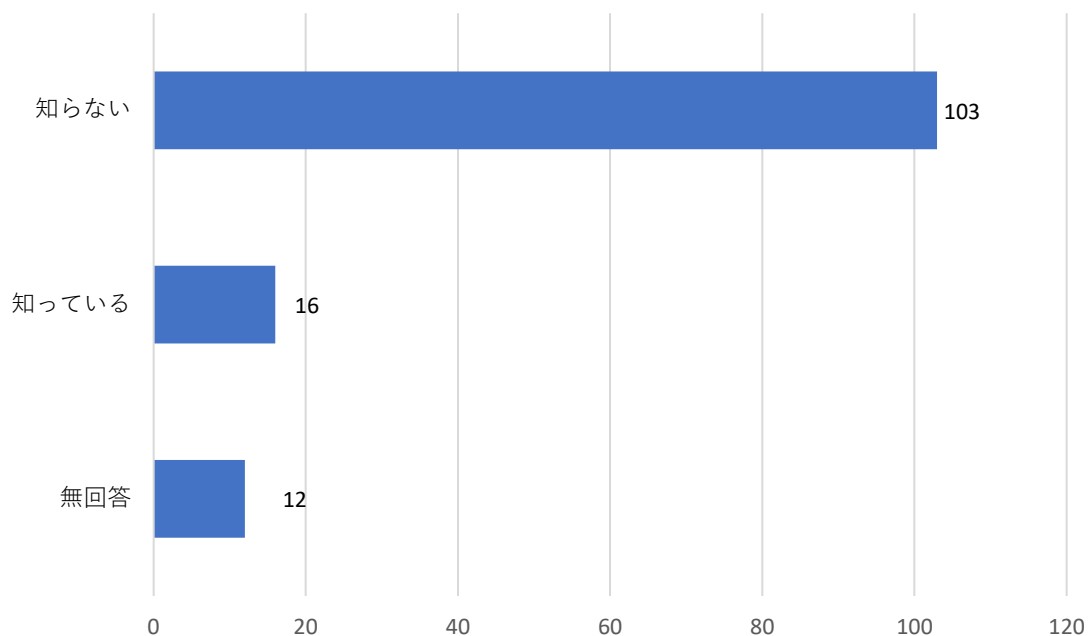
# 回答結果

問7 事業承継に関して、求める支援はありますか。

(当てはまるもの全て)



問8 「茨城県事業承継・引継ぎ支援センター」をご存じですか。あてはまるものをお選びください。



# 総括

## 属性別にみた将来の考え方

### ●年齢

70歳以上は「自分の代で廃業」志向が特に多い。体調・健康、老朽化、後継不在を理由に挙げる傾向。

59歳以下～60代前半は「継いでほしい」意向が比較的目立つ一方、後継候補や人材難、資金調達・設備投資に関する懸念が強い。

### ●業歴

30～40年以上の属性は「地域需要縮小」「設備更新費」「人材不足」を課題としている。

### ●従業員数

0～5名の小規模事業で「廃業」の選択が多い。後継候補探索の負担や技能の属人化が背景と考えられる。

11～30名など中規模は「他者承継（従業員、第三者、M&A）」への志向が見える。

### ●先代との関係

「自ら創業」は廃業志向と第三者承継志向が二極化。

「直接の親族から承継」は次世代へも親族承継を望む回答が多い。